

ジェネリック

話題のジェネリックとは、開発メーカーの特許が切れた医薬品を、別のメーカーが作った医薬品のことを言い、後発薬品ともいいます。この類の薬品は昔からありますが、以前は製品にバラツキがあったりしたため使われることが少なかったのですが、近年になり技術の進歩や行政指導もあり安心して使えるようになりました。

ジェネリックは開発費が含まみませんので薬価が安いのは当然です。そこで、保健財政で困っている政府行政は、安定してきたジェネリックを使うことで少しでも財政を回復したいと考えてののです。もっともジェネリックの使用度は先進国ではかなり使われています。

国はジェネリック推進策として、医師が処方箋を書くときに一部の薬品はジェネリックに変えてもいいというサインがあれば、薬剤師が変更しても良いとされました。ただしどのジェネリックに変えかは薬剤師が医師に報告しておりました。

それを一歩進め、4月からは、サインのある開発メーカー品以外は薬剤師と患者さんが相談してジェネリックに

積極的に変えるシステムになりそうです。このことで国は一兆円の保険節約になると踏んでいます。

これからのジェネリック薬品は、医師、薬剤師そして患者さんと連携で多く使われることになります。処方

箋をもらったら、あなたの「かかりつけ薬剤師」に相談することは、保健財政改善協力の第一歩になるかも

しれませんね。処方内容にもよりますが、薬局で支払う一部負担が安くなるのは間違いなさそうです。